

市民クラブ 通信

発行 市民クラブ 発行責任者 林 隆文 千葉県八千代市八千代台北1-5-2

八千代市議会活動レポート 2021年3月号

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsの17の目標

1. 持続可能な開発目標
2. 経済成長
3. 社会的公正
4. 教育
5. 健康
6. 環境
7. 水資源
8. 貧困
9. 地域開発
10. 住み続けられるまちづくりを
11. 経済成長
12. 持続可能な消費と生産
13. 気候変動
14. 海洋保全
15. 陸地保全
16. 安全な都市と社区
17. 各国が協力する

「持続可能な市政運営へ」

□ 会派代表 林 隆文

総務常任委員会 委員長



二度目の緊急事態宣言の延長により、徐々にコロナウィルスの感染者が減ってきてはいますが、まだ先の見えない状況が続いております。一刻も早くコロナ禍が収束するよう願うばかりです。そのような状況の中で今年は、千葉県知事選挙、八千代市長選挙、衆議院議員選挙が行われます。その中でも我々にとって一番身近なのは、八千代市のトップを決める市長選挙であります。現職の服部市長には、国・県・市のパイプをしっかりと活かしながら、八千代市政発展のため尽力していただきたいと思います。我々と致しましても精一杯支援して参る所存です。私と致しましては、今後八千代市が発展していく為の施策として、観光施策の推進、公共施設の再編、市役所庁舎の建替え、八千代台駅周辺の再編等を中心に推進して参りたいと思います。今後とも皆様の忌憚なきご意見賜りますようお願い申し上げます。

□ 小澤 宏司

文教経済常任委員会 委員長



昨年は八千代市議会の副議長という役を仰せつかりました。議長とともに政務調査費の半年分の返納を多くの会派に協力していただきコロナ対策費として使用して頂けるよう行政に要請しました。議会としても様々な対策について速やかに、また取りこぼしの無いよう皆様の声を届けてきました。コロナ禍という特殊な状況下の中、議員として何をすべきか。考えさせられる一年となりました。令和3年を迎えて、文教経済常任委員会を志願し、この街の商工業の救済、発展、子どもたちの教育や学びの機会をしっかりと確実なものにする為、様々な可能性を追求します。



□ 西村 幸吉

四市複合事務組合議会 副議長 / 福祉常任委員会



新型コロナウィルスのパンデミックで世界中が翻弄され、未だ終息が見えずにいます。延期された東京オリンピック・パラリンピックが果たして開催されるのでしょうか？八千代市は第五次総合計画の前期基本計画の策定中です。少子高齢化や人口減少の中で持続可能な社会をどのように形成していくのか地方創生の観点からも熟慮された計画が期待されます。「住んで良かった住み続けたい八千代」をつくるために市民参画にてパブリックコメントを通じて多くの市民の方々のご意見をお聞かせください。市庁舎建設もコロナ

にて延期になっています。首都直下地震等災害はいつ来るかわかりません。常に備えが必要です。市役所は防災対策本部としての役割をしっかりと大切な市民の命と財産を守ることになります。早い整備が願われます。今やるべきことを見極めて政策形成していきます。



□ 嵐 芳隆

八千代市監査委員 / 都市常任委員会

市議会議員として4期目も残すところ2年となりました。このたび臨時議会において市の監査委員に選任されました。議会とはまた別の角度で市政に対し意見を述べていく機会を得ることができ、また市政のチェック機能として重要な立場であると自覚しております。コロナ禍において各事業やイベントが中止になる中でも私たちは感染対策をしっかりした中

できることをやっていくしかありません。震災はじめ災害に対して常に公僕として何ができるかを念頭に活動してまいります。市民の皆様の声を聞く機会も減ったように感じております。そんな中、私たち市民クラブは、やってるフリでなくパフォーマンスでなく心底市民の皆様のために何ができるかを考えて市政報告、議会報告を今後企画していく予定でございます。これからも私たちの活動に皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。情熱と責任感と決断力を持って！



□ 澤田 新一

議会運営委員会 副委員長 / 文教経済常任委員会 / 都市計画審議会委員

本市は昨年20万人都市となりましたが、「八千代市人口ビジョン」の予測によると令和7年度をピークに人口減少に転じるとされており、少子高齢化や人口減少の問題は避けて通れない喫緊の重要課題です。この状況を改善させるためには「魅力ある・賑わいのある街づくり」を具現化する施策が必要であると考えます。「京成線沿線の活性化」や「駅周辺の再開発」等々による、Uターン者や若い世代の人口流入を促進するための施策として「定住・移住支援制度」や「三世代同居・近居・隣居支援制度」等の創設を目指してまいります。本市のグランドデザインである第5次総合計画が来年度よりスタートいたしますが、新型コロナウイルス感染症対策・老朽化した公共施設の個別施設計画等の差し迫った課題も累積いたしております。本市発展の為、八千代版SDGs(だれ一人取り残さず、幸せに生活できる八千代市)を目指し、会派メンバーと共に課題解決に取り組んで参ります。



□ 花島 美記

福祉常任委員会 副委員長 / 広報委員会 副委員長

みなさん、こんにちは。日頃より私の議員活動に対するご理解とご支援に心から感謝を申し上げます。長引くコロナ禍で、あたりまえの日常は新しい生活様式に変化を遂げました。未だ戸惑いや不安拭い去ることはできませんが、この新たな変化が、少しでも我々の生活を良い方向に軌道修正する機会となることを望みます。さて、私はこの度、福祉常任委員会の副委員長を務めることになりました。市民の皆さんへの福祉への関心は、これまで以上に高まりを見せています。高齢の両親は日々身を持って、住み慣れた場所で暮らしていくことの大切さを私に教えてくれます。サービスを必要とする人に必要なサービスが行き届くよう、行政はニーズを把握し調整する役割があります。常任委員の皆さんと共に福祉行政の審査と推進に取り組んで参ります。そして、魅力と活気に溢れ、誰もが健やかに、いつまでも住み続けられる八千代市となるよう、令和3年度も全力で働く所存です。